

【本号のトピックス】

Mandalay Dental Conference 2013 参加報告 / 口腔湿潤剤フォーラム / 北海道口腔ケアセミナー報告 / 支部活動たより

Mandalay Dental Conference 2013 に参加して

東京医科歯科大学大学院麻酔・生体管理学分野 深山 治久
東京医科歯科大学歯学部 下山 和弘

ミャンマー連邦共和国のマンダレーで開催された Mandalay Dental Conference 2013 (平成 25 年 7 月 27 日および 28 日、主催:ミャンマー歯科医師会、マンダレー地区ミャンマー歯科医師会) に参加してまいりました。ミャンマーはタイとインドの間にある東南アジアの国です。「ビルマの竖琴」がお年寄りにはなじみがあるかもしれません。現在の人口は 6000 万人ほどで、65 歳以上の人口は 5.1% (2012 年推計) です。旧首都ヤンゴン (旧ラングーン) やマンダレーが大きな都市です。農業がおもな産業で、地下資源が豊富でこれからの発展が大きく期待されています。軍事政権が長く続いたこともあり、私たちになじみがあまりなかったのですが、実は、対日感情がとても良好です。近年の民主主義政策により、産業構造が大きく変化していて、我が国ばかりでなく周辺の中国やインド、また韓国も経済進出をしようとしています。全日空が成田・ヤンゴン間の直行便を昨年より開設し、今年 5 月には安倍首相が訪問していることからよくわかります。深山は、10 年ほど前にミャンマーからの留学生を指導

したことがあり、毎年、講演に訪れているミャンマー最良です。

臨床に役立つ老年歯科医学の講演を依頼されましたので、下山は「無歯顎印象の要点」、深山は「歯科における局所麻酔の新たな機器」を講演しました。ヤンゴン歯科大学 Thein Kyu 学長は日本の実情をも踏まえて「老年歯科医学の現状と問題点」を講演されました。角 保徳先生 (国立長寿医療研究センター) が参加できなくなったため Thein Kyu 学長が急遽この講演を行ったものです。その他には「HIV 感染症」「インプラントオーバーデンチャー」などの講演が行われました。またマンダレー歯科大学およびヤンゴン歯科大学を訪問しましたが、日本との結びつきの強さが印象的でした。これら 2 校しか歯科大学がないので、歯科医療もこれからです。ミャンマーの歯科医療・教育の発展に尽力された故山田 巖先生をはじめとする先達の気概を引き継いで少しでも協力したいものです。



ヤンゴン歯科大学 Thein Kyu 学長の講演



懇親会でのマンダレー歯科大学 Shwe Toe 学長の熱唱。Thein Kyu 学長も熱唱されました。両学長とも日本に留学していました



マンダレー政府や歯科医師会などの要人による展示会場の視察



ヤンゴン歯科大学の診療室。背板に From the People of Japan と書かれたユニットが多く見受けられました



ヤンゴン歯科大学の学年対抗サッカー試合を観戦する Thein Kyu 学長と筆者(下山)



試合終了後、勝利を喜ぶ選手と応援団

口腔湿潤剤フォーラム開催される

企画・実行委員長 菅 武雄

去る平成 25 年 5 月 12 日(日)、本学会主催の「口腔湿潤剤フォーラム」が鶴見大学会館(横浜市)において開催されました。

開催の主旨は、口腔湿潤剤に関わるすべての人、製品、情報を集めてしまおう、というものでした。フォーラム形式としたのは、講演会や学会研修会といった堅苦しい雰囲気や薄め、非会員にも参加を呼びかけたかったからです。そして老年歯科医学会の活動を知ってもらい、仲間を増やすことができれば(入会につながれば)という考えからでした。キャッチコピーは「(口腔湿潤剤) その、すべてを！」。口腔湿潤剤のすべてについて知ってしまおう、という意味です。そのために、全国から 11 名の講師を招聘しました。

基調講演は森戸光彦理事長に口腔のケアについての概略をお願いしました。「口腔ケア」ではなく「口腔のケア」と呼ぶべきではないか、という提案が行われました。その後に発刊された歯科衛生士教科書でも「口腔のケア」と呼称されるようになったことを鑑みると、知識技術の蓄積におけるフォーラム開催の価値を感じます。

教育講演は、まずレオロジスト(新井武彦先生・英弘精機)による流体力学の基本をお話頂きました。口腔湿潤剤の動的粘弾性特性など、材料設計に欠かせない知識です。講演後、口腔湿潤剤の開発に関わっている研究者数名からコンタクトがあったそうです。口腔湿潤剤にもっと科学的な裏付けが蓄積できるのであれば、フォーラム開催の価値はあったといえます。次に齋藤義夫先生(鶴見大学歯学部附属病院・薬剤師)による口腔環境への応用についてお話頂きました。口腔湿潤剤の生まれた背景に薬剤局所応用(DDS: Drug Delivery System)があったという話でした。口腔内に用いる軟膏の材料設計が優れていることで知られる鶴見大学歯学部のノウハウが紹介されました。臨床系講演では、まず口腔乾燥症の基礎と臨床について柿木保明先生より最先端の考え方をご教示頂きました。そしてオーラルマネジメントの中での口腔湿潤剤について岸本裕充先生に講演頂きました。

ミニレクチャは現場のエキスパートから、そのエッセンスをお話頂く企画でした。ドライマウス外来の現状と口腔湿潤剤の選択基準(山本 健先生)においては、5000 症



フォーラム会場

例を越える経験の中からドライマウス臨床の現状と対応を紹介頂きました。急性期看護における口腔湿潤剤の応用(西村和子先生)では、日本最大規模の総合病院における摂食・嚥下リハビリテーションの一環としてのケアについてお話頂きました。口腔湿潤剤に頼ることのないケア手法の紹介(西川利恵先生)では逆説的かつ進歩的な「早期に口から食べる」ことへのアプローチをお話頂きました。人工呼吸器装着患者さんに対するケアとして口腔洗浄に代わる感染対策への応用(渡邊 裕先生)とその研修システム(星野由美先生)はペア講演としてお願いし、今後の入院患者さん、特に人工呼吸器を装着している患者



森戸理事長の基調講演

さんへのクリティカルなケアに対する安全性を高めたケア手法と歯科衛生士に求められる口腔咽頭ケアの研修システムについて御講演頂きました。最後の講演は死生学を背景としたターミナル・ケア領域のお話(阪口英夫先生)を頂きました。70年代に死生学を提唱したオースティン・クッシャーを紹介頂きましたが、死生学財団の設立者が歯科医師であり、ターミナル患者さんへの口腔のケアが40年以上前に確立されていたことを再認識させられる御講演でした。講師の先生方、どうもありがとうございました。

参加者は400名を超え、22社の関連企業の展示も行われ、盛況のうちに7時間のフォーラムは閉幕しました。

第12回 北海道口腔ケアセミナー報告

札幌市立大学看護学部 村松真澄

第12回北海道口腔ケアセミナーが一般社団法人日本老年歯科医学会北海道支部との共同主催にて、平成25年5月18日(土)12:00~16:30、北海道自治労会館にて開催されました。当日は、北海道口腔ケア研究会代表世話人北海道大学名誉教授 井上農夫男先生の挨拶に始まりました。参加者は約170名、看護師が6割を占め、その他は歯科医師、歯科衛生士、薬剤師、言語聴覚士等でした。

教育講演1として『消化器外科領域(特に食道癌)の周術期管理』～肺炎・縫合不全などの合併症、栄養管理や口腔ケアなどの総合的な合併症対策～と題して北海道大学病院 消化器外科准教授七戸俊明先生に消化器外科の周術期の管理について講演いただきました。

教育講演2として『周術期口腔ケアと地域連携』社会医療法人北斗 北斗病院 歯科口腔外科部長北川栄二先生が、北斗病院と十勝地区の取り組みについて報告されました。歯科医師会と病院との連携、歯科医師会の周術期口腔ケア勉強会の開催、地域の多職種連携について報告されました。

特別講演では、『口腔アセスメント OAG の教育と活用』東京医科大学病院 副看護部長高城由紀さんが東京医科大学病院での看護部の取り組みについて紹介しました。看護部としてアンケートを取りながら、進めていった



井上農夫男先生の挨拶

経緯の紹介と口腔ケアのシステムづくりには、やりたいスタッフを手上げ方式で集め、グループワークをしながら、口腔ケアのフローチャート作成やマニュアル作成、口腔ケア委員会を立ち上げたという報告でした。

一般演題Ⅰとして『周術期の口腔管理ー歯科衛生士の役割の実例』北海道大学病院・診療支援部・歯科衛生士の中山絵里さんが北海道大学病院で実践されている周術期の口腔管理について歯科衛生士の活動を紹介されました。

4つの演題はどれも先進的な素晴らしい報告でした。最後に北海道大学大学院歯学研究科口腔病態学講座口腔診断内科学教室 教授北川善政先生の司会による活発な質疑応答が行われました。

支部活動たより

東京支部主催セミナー

在宅歯科医療のシステム理解と実際

会 場：あすか会議室

〒104-0028 東京都中央区八重洲 2-2-1

ダイヤ八重洲口ビル 3 階 303 号室

単 位：認定医・専門医研修単位 各3単位

第1回：10月13日 10:00～16:00 森戸光彦

I 概説

II 超高齢社会の成立と社会学的問題点

第2回：11月17日 10:00～16:00 大渡凡人

III-1 高齢患者の有する問題点と対応 森戸光彦

III-2 照会状の書き方(演習)

III-3 診療情報の分析(演習)

III-4 プロブレムリストへの反映(演習)

第3回：12月8日 10:00～16:00

菊谷 武・森戸光彦

IV 高齢者の栄養管理(栄養ケアマネジメント)栄養指導

第4回：1月19日 10:00～16:00 菅 武雄

V-1 在宅医療と在宅歯科医療【総論】

第5回：2月9日 10:00～16:00 菅 武雄

V-2 在宅歯科医療【各論1】診療分野

V-3 在宅歯科医療【各論2】ケア分野

歯科衛生士のための高齢者歯科学講座 入門コース

会 場：東京医科歯科大学1号館9階特別講堂（第1回のみ同大歯学部4階特別講堂）

第1回：10月20日 基礎編

森戸光彦

第2回：11月24日 有病高齢者編

森戸光彦，佐藤由紀子

第3回：12月1日 栄養ケアマネジメント編

森戸光彦，澤島果林

第4回：12月8日 訪問歯科診療編

菅 武雄，佐藤由紀子，澤島果林

お問い合わせ

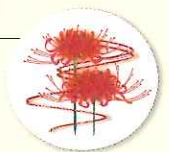
特定非営利活動法人歯科医療情報推進機構

〒113-0033

東京都文京区本郷 3-26-6 NREG 本郷三丁目ビル 7F

TEL: 03-5842-5540 FAX: 03-5842-5541

URL: <http://www.identali.or.jp>



海外の老年歯科医学関連学会

国際渉外委員会

92nd General Session & Exhibition of the IADR

会期：2014年6月25-28日

場所：ケープタウン(南アフリカ共和国)

演題抄録締め切り：2014年1月13日

URL: www.iadr.org/iags

編集後記

早いもので、News Letter(NL)の担当(広報・研修委員会)を拝命して1年が経ちました。毎回NLの記事収集には委員の皆様方をはじめ、会員の皆様方には多大な御迷惑をお掛けしております。これも、担当委員長である私の非力さ故とお許しいただければと存じます。これまで、支部主催研修会(開催周知・報告)、海外関連学会報告などを中心にNLを掲載して参りましたが、今後、会員の皆様方からの寄稿、当学会各委員会だよりなども含め内容を充実させて参りたいと思います。ご依頼が舞い込んだ際には、是非ご協力いただけましたら幸甚でございます。

最後になりましたが、これからも会員の皆様には、有益な情報を提供して参りたいと思いますので、引き続きNLを宜しく願ひ申し上げます。
(平野浩彦)

発行人 森戸光彦

編 集 日本老年歯科医学会広報・研修委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9

駒込TSビル402 (一財)口腔保健協会内

電 話 03-3947-8894 FAX 03-3947-8341